

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0371200239		
法人名	社会福祉法人 江刺寿生会		
事業所名	グループホーム かつひろの家		
所在地	〒023-1101 岩手県奥州市江刺区岩谷堂字下惣田290番2 (電話) 0197-31-2201		
評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号		
訪問調査日	平成20年12月9日	評価確定日	平成21年2月24日

## 【情報提供票より】(平成20年11月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	5.1 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	預り金管理費1,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(11月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	7 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	1 名
年齢	平均 89 歳	最低 84 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	柏木医院(内科)、佐々木歯科医院(歯科)
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

総合的な福祉エリア「ヒロノ福祉パーク」内に設置しているグループホームである。パーク内には同法人運営の施設のほか、乳児院や市社会福祉協議会支所などが隣接しており、地域住民を含めてその交流が盛んに行われ、連携が深められている。職員は、法人内で実施している職員1テーマの小論文への取り組みや、自己評価項目についての学習会を全員で行っており、質の高い利用者サービス提供を目指す姿勢が強く感じられる。また利用者は、様々な行事への参加や外出を通して、多様な世代と交流を図りながら、いきいきと生活して過ごしている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価で話題となっている地域との様々な形でのつきあいについては、自治会の方々をホームに招いて「茶話会」を実施するなど、新たな交流の機会を設けながら取り組みを進めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全国グループホーム協会のガイドラインをもとに、全職員が評価に関する学習会を重ね、その意義の理解と情報の共有を図りながら、評価票の記入等に全員で当たっている。その過程を通じて、「全職員が一つの目標に向かう必要性・大切さ」など、今後取り組むべき項目等について、様々な気づきが得られている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は隔月に開かれており、利用者の状況や行事等の報告、また委員との意見交換を行っている。さらに利用者との交流を深める機会として「昼食交流会」などを実施することによって、ホームや利用者について理解を得ながら取り組んでいることがうかがえる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>相談・苦情の窓口の設置はもちろんのこと、行事等に家族等が参加された際には、要望や意見を得るためのさりげない声がけに配慮している。また、家族アンケートを実施して満足度調査を行うとともに、ターミナルケアについての意向を確認している。特に、家族分の広報の送付など、利用者や家族のつながりを大切に支えに努めている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの他に複数の施設や事業所が併設しているという特徴があり、施設行事等への参加を活発に行うほか、ボランティアの交流や、毎日の買い物など日常的な外出を通して地域住民との交流を図っている。また、新たに自治会の方々を招いての「茶話会」という取り組みを始めている。</p>

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームが地域密着型として新たに位置付けられたことなどを契機として、三年ほど前、管理者を中心として職員みんなで話し合い、理念の見直しを行っている。「～尊厳のある生活の構築～○ゆっくり穏やかに○のんびり楽しく○一緒に笑顔で暮らす家」という新たな理念を定めて、全職員一丸となって取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関等に掲示するとともに、法人のミーティングで職員が唱えるなど、その意識付けがしっかり行われている。特に食事の前に利用者と職員と一緒に理念を唱和して、ホーム全体としての共有が図られている。なかでも「ゆっくり」というキーワードは、個々のケアの方法を考えるうえで、その基本となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの他に複数の施設や事業所が併設しているという特徴があり、施設行事等への参加を活発に行うほか、ボランティアの交流や、毎日の買い物など日常的な外出を通して地域住民との交流を図っている。また、新たに自治会の方々を招いての「茶話会」という取り組みを始めている。	○	徘徊が疑われる高齢者の情報が寄せられるなど、ホームに対する地域の認識が進んでいる。地域とのつきあいが深められていることや、職員またはホームの取り組みのレベルの高まりから考えて、今後は、「認知症介護拠点」としてのホームの役割やあり方などについて検討されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全国グループホーム協会のガイドラインをもとに、全職員が評価に関する学習会を重ね、その意義の理解と情報の共有を図りながら、評価票の記入等に全員で当たっている。その過程を通じて、「全職員が一つの目標に向かう必要性・大切さ」など、今後取り組むべき項目等について、様々な気づきが得られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月に開かれており、利用者の状況や行事等の報告、また委員との意見交換を行っている。さらに利用者との交流を深める機会として「昼食交流会」などを実施することによって、ホームや利用者について理解を得ながら取り組んでいることがうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議等、会議の機会を通じて包括支援センター職員と連絡を取り合っている。また市の担当職員とは、訪問して意見交換を行うほか、利用者の申請代行などの諸手続きや利用相談について十分な連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	電話で定期的または随時に連絡を取り合っているが、家族等の面会時には、口頭で利用者の心身の状況や暮らしぶりを伝えるばかりでなく、ケース記録を開示することによって、より詳細に報告している。また広報を発行する際には、複数部を家族へ届けて、家族や兄弟がより多く目を通すことのできるよう工夫している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の窓口の設置はもちろんのこと、行事等に家族等が参加された際には、要望や意見を得るためのさりげない声かけに配慮している。また、家族アンケートを実施して満足度調査を行うとともに、ターミナルケアについての意向を確認している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限に止めるという運営者等の理解と認識の下に運営しているが、やむを得ない異動等があった場合には、利用者及び家族への説明を十分に行うことによって、信頼関係を保つこととしている。なお、新任職員については、エルダー制度による2か月間のマンツーマンの指導体制などがしっかりと考慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会研修などの外部研修、法人または事業所の内部研修等には、勤務体制を考慮しながら多くの参加機会をつくっている。特に法人内では年に2回、担当業務に関する1人1テーマ研修があり、職員全員が取り組むことにより、高い意識を持ってサービスの質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に参加して、積極的に他事業所との情報交換を行い、相互のレベルアップに努めている。その他、老施協県南ブロックを通じた研修や行事等にも出来る限り参加して、その交流連携を深めている。県内奥州ブロックで最初に設置されたホームとして、リーダーシップが期待されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問調査を行い、これまでの生活状況を細かに把握するほか、見学を通して雰囲気を知ってもらい、安心や納得が得られた上での利用に努めている。利用開始時には、特に家族に頻繁な来所を依頼し、安心と家族との繋がりが途切れないような支援を心掛けていると同時に、ゆっくりと時間をかけて、職員と利用者との距離が縮められよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	旧暦の行事や昔ながらのお菓子作りなど、職員は利用者から聞かなければ分からないことも多いという。出し汁をとった後の煮干しを捨てていたが、利用者が「もったいないから食べるべ。」と言ったのを契機に皆で食べるようになったという納得のエピソードもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望を把握するとともに、普段の生活を通しての職員の「気づき」、合わせて、家族から情報を得ながら、アセスメントには、センター方式を活用するなどして、より本人の思い等が把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用したアセスメント情報を基にして、当初はケアマネ中心にケアプランの原案をつくり、ケアカンファレンスにおいて担当者等職員全員で話し合い、情報を共有しながら、ケアプランとして、家族の同意を得て作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回、モニタリング、全職員でのカンファレンスを経て、定例的に見直すほかに、状態等変化があった場合はその都度、家族と連絡を取り合い、説明のうえ話し合いを重ねながら、その計画の見直しを行い、新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	初詣や花見、日帰り温泉旅行、ふるさと巡りなど、利用者の希望や意向に沿って、多彩な場所への外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、家族同行を基本としながらも、緊急等の際には職員が通院支援を行うなど、柔軟に対応している。職員が通院支援を行う際には、医師や家族への受診の情報提供を充分に行うことを徹底している。特に、本年度は、歯科医との連携強化に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本年度、サービスの満足度の調査と合わせて、「ターミナルケアについて」の項目を加えた家族アンケートを行い、その意向の把握を行っている。終末期に関する家族のデリケートな心境に触れて、今後につながる取り組みの一步にしたいとしている。	○	「ターミナルケアについて」の家族アンケートの結果を基にした、ホームの今後の取り組みの方向性や対応等などについての職員の話し合いや研修の機会が設けられることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保については、利用者が電話をかけるとき、さりげなくその場を離れるとか、ケアを行う際の「声がけマニュアル」を作成するなど、その意識の高さを感じられる。ケース記録等、個人情報についても、外部等から目が届かないところに整理保管するなど徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは特に決めておらず、起床時間や食事づくり、買い物や散歩など、生活のあらゆる場面で、利用者本人のその日の状態や気持ちに配慮しながら、それぞれのペースを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のほとんどが、食事の調理や後片付け部分を中心に参加している。調理の仕方や味付けについて職員とやりとりをしながら料理をつくり、一緒に食べている。ホームの畑から皆で収穫した野菜を使い、利用者の得意とする漬物などをつくることもあり、楽しみながら食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきを目安にしながら、体調等に依りて柔軟に対応している。菖蒲湯、ゆず湯など季節感を感じられるような工夫をしているほか、入浴する際に職員との会話が好きな人には、じっくり話し相手になるなど、安心して楽しく入浴できるような支援を心がけている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者1人ひとりについて、食事作り、洗濯物たたみ、ふきん縫いなど、少なくとも一つは役割が持てるよう支援しており、終わった後には必ず感謝の気持ちを伝えることを心掛けている。訪問当日は、チラシで箱作りを覚えた利用者が、その活動を日課としていきいきと取り組んでいる姿が印象的であった。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物のほか、周辺の散歩など外出する機会は多く、利用者の気分転換につながっている。「自宅に行きたい」という利用者の希望にも、柔軟に応えている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室ともに日中は施錠しておらず、利用者が外出する際には、職員の見守りによって対応している。なお、近くに川が流れていることから、玄関と居室にセンサーを設置して、見守りの体制を強化することにより、事故防止や安全確保に努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎年法人全体およびグループホーム単独での避難訓練を実施している。20名ほどの地域の防災協力員による協力のもと、実践的な防災訓練となっている。加えて、防災マニュアルの整備や非常用持ち出し品の準備、食料品などの備蓄を行い、災害に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事量は、摂取状況を確認しており、必要に応じて紅茶やコーヒー、煎茶などのバリエーションにより、水分量を確保する工夫をしている。また併設する特養施設の管理栄養士から、カロリーや栄養バランス、医療食の指導を受け、利用者の状態に応じた支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としたスペースの中、食事用のダイニング部分、ソファのあるリビング部分、畳敷きのお昼寝スペースなどをさりげなく仕切り、ゆったり過ごせる工夫をしている。天窓は明るく、気温の上昇に配慮して、日よけがインテリア風に設けらるなど、壁の飾りなどを含め、すっきりときれいに配置され、居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた色のベッドとたんすが備え付けられている居室には、利用者の意向によって3畳ほど畳を敷いていたり、手づくりの貼り絵、家族等の写真を好きなどころに飾っているなど、それぞれに自分らしい部屋を演出して過ごしていることが見受けられた。		